

成長を続ける中国ソフトウェア産業

中国のソフトウェア産業は、成長率の鈍化傾向はみられるものの、かなりの水準で成長を維持し続けていることに変わりはない。その中国ソフトウェア産業の特徴は、一部の大手を除いて規模の小さな企業が多いことである。本稿では、中国ソフトウェア産業を売上の面から分析するとともに、各社がどのような成長戦略をとっているかについて述べる。

拡大する中国のソフトウェア市場

中国CCIDコンサルティング社の「2006—2007年 中国ソフトウェア産業分析レポート」によると、中国のソフトウェア産業の販売高は2006年には7兆6,800億円（1人民元＝16円で計算）に達したという。このうち組み込みソフトウェアが30.5%、ネットワークサービスが33.3%を占めており、システムインテグレーションやITサービスの市場は残りの36.3%、2兆7,840億円である。この2兆7,840億円のうち海外向けは27.6%の7,680億円（全体の10%）にすぎず、残りは国内向けである。日本からみるとオフショアの開発拠点と考えられがちな中国のソフトウェア産業であるが、じつは国内市場を中心に成長していることがわかる。また、2006年の成長率（前年度比）は23.1%となっており、2005年の40.3%と比べるとかなりのダウンであるが、依然として高い成長を維持している。

一部の大手と多数の小規模企業

中国にはソフトウェア開発企業が1万以上もあると言われている。その大多数は、社員数が数十人に満たない小規模の企業である。

中国信息产业部が毎年発表している「ソフトウェア売上上位100社リスト」（中国軟件業務收入前百家企業名單）に基づいて、中国のソフトウェア開発会社の現状を分析してみよう（http://www.mii.gov.cn/art/2007/04/26/art_2001_30162.html）。

2006年の100社の売上を合計した金額は2兆3,001億円で、2005年の1兆8,040億円より27.5%の増加である。これは市場全体の成長率23.1%より若干高い。全体の売上に占める100社売上合計の割合は、2005年の28.1%から2006年は29.9%となり、若干の上位寡占が進んでいることがわかる。

第1位は通信設備メーカー最大手の華為技術社で、ソフトウェア収入は100社全体の20.7%を占める4,764億円である。その一方で、第100位の企業は売上高が51億円程度で、また半分以上の企業が100億円以下となっている。このように、上位100位に限ってみても非常に大きな差があり、一部の巨大な企業と多数の小規模企業という構図があることがわかる。

3つの成長パターン

中国のソフトウェア開発企業は、それぞれ

NRI上海
主任コンサルタント

葛島知佳 (くずしまともよし)

専門は情報通信産業における事業戦略・マーケティング戦略の立案



どのような成長を目指しているのだろうか。

筆者は、中国ソフトウェア開発企業の成長には以下の3つのパターンがあると考えている。

- ①販売チャネルを強みとした商材の拡大 (神州数碼社など)
- ②他社買収による規模の拡大 (用友軟件社、金蝶軟件技術社、中国軟件社など)
- ③自社リソースで人員育成・確保 (東軟集団社など)

ここで再び上記の「売上上位

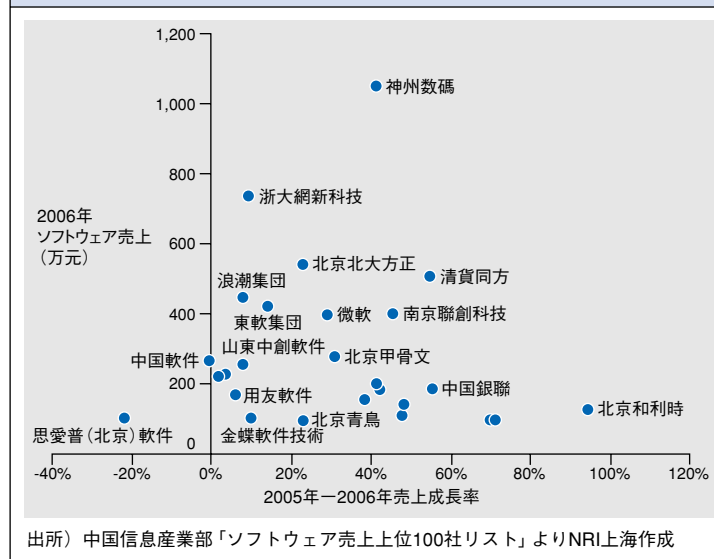
100社リスト」から、組み込みソフトウェアの開発を主としている企業を除いた上位30社を選び、2006年の売上高と成長率 (2005年～2006年の売上増加率) をプロットしてみたのが図1である。

これを見ると、多くの企業が数十パーセントという高い成長を遂げていることがわかる。とくに規模では神州数碼社が圧倒的に大きく、成長率も41.3%と高い。

神州数碼社は、聯想集団社から分離した、PCやサーバー製品などを中心に販売するIT企業であるため、強力な販売チャネルをもっている。近年はそのチャネルを活かして、開発したソフトウェアの販売を行っている。

一方で、用友軟件社、金蝶軟件技術社などパッケージ中心の企業は伸び悩みがみられ (用友の成長率は6.2%、金蝶は9.9%)、規模の

図1 ソフトウェア開発企業のソフトウェア売上と成長率の分布



拡大も進んでいない。両社とも中国におけるERP (統合基幹業務システム) パッケージではシェアの1位、2位を争う大手企業であるが、成長という点では苦戦しているようである。近年、両社は事業規模の拡大をめざして他社の買収をさかんに進めている。

また東軟集団社は、2002年にITの専門教育を行う東北大学東軟情報技術学院 (南海) の設立に共同出資し、自前の人材育成を規模の拡大につなげようとしている。現在では、南海のほか大連と成都にも同じ学校が設立され、在校生は2万人を超えている。

中国のソフトウェア産業は小規模な企業の集合体と言える。各企業は、それぞれの方法で成長を実現することにより競争状況から一歩抜け出そうと模索している。 ■